

各部署の取り組み

石巻地域センター 地域支援課

平成 26 年度石巻地域センターの活動状況について

石巻地域センター 地域支援課
精神保健福祉士 新井 弘美

1. はじめに

東日本大震災から 4 年が経過し、石巻圏域における被災地のインフラ整備も徐々に進められ復興の道筋も見られる。それに伴い、復興支援団体は被災地から徐々に撤退を始めている。その中で被災地においては、自立再建された方や災害公営住宅へ転居される方も含め、自治体を中心となって新たなコミュニティの再構築が取り組み始められている。一方で、新たな生活の場においても震災の傷を抱えたまま日々の生活を送られている方、また、民間賃貸借上住宅やプレハブ仮設住宅で生活再建の目途が立たない方もおり、復興における個々の格差の拡大など新たな問題、特にアルコール関連で問題を抱えた方が表面化してきている。

以下、このような状況の中で、平成 26 年度に石巻地域センター、東松島市、女川町、東部保健福祉事務所、石巻市への出向者が実施した活動と今後の取り組みについて併せて報告する。

2. 平成 26 年度の取り組み

(1) 地域住民支援

① 平成 26 年度健康調査フォロー支援（表 1）

宮城県と市町村は共同で、県内の民間賃貸借上住宅入居者及びプレハブ仮設住宅入居者の健康調査を実施した。その結果、石巻市より石巻地域センターに『K6 が 13 点以上』、『朝からまたは昼から飲酒することがある』の 2 項目において、個別面接等のフォローが必要な被災者についてプレハブ仮設住宅、132 世帯 159 名の依頼があった。K6 の項目（全項目）では眠れないと回答された 109 名のうち、内科受診をして睡眠剤を処方されている方は 66 名、精神科に受診している方は 16 名であった。年齢では 60 歳以上の方が 95 名と 60 歳以上世帯では「震災後体が弱くなった、生活していくのが大変だ」と健康面や経済面で不安を抱いている訴えが多くみられた。朝から飲酒の項目に記載した 53 名の方は、「欄を間違えて記載した」「ノンアルコールだけど記載した」「休日、外出など用事がない時に飲んだりする、多量には飲まない」と飲酒問題が疑われる方は少なく、問題と思われた 6 名を継続支援とした。継続支援世帯は 23 世帯であった。

表1 プレハブ仮設住宅入居者調査実施状況

	プレハブ仮設住宅入居者調査
県・市町村による健康調査	平成26年度分（平成26年9月～11月実施）
初回訪問期間	平成27年1月中旬～平成27年2月下旬
訪問支援した世帯数	132世帯
継続支援世帯数（再掲）	23世帯

※ 平成26年度民間賃貸住宅入居者健康調査フォロー支援については平成27年4月より実施予定。

② 相談支援

被災住民の相談は、平成26年度から被災者自身または家族からの直接相談が増加した。相談内訳では精神疾患、アルコール、高齢者健康、居住環境、住民トラブル、母子・家族関係等の問題の相談が増加した。精神疾患関連では、未治療と思われる方の相談が多くみられた。また、震災時の辛い思いや震災に起因すると思われるトラウマ関連の相談も増加した。相談者の中には、医師の面接を希望する方や診察が必要と思われる方もおり精神科病院と連携し治療へと繋いだ。また、相談内容によって管内の地域包括支援センター、精神保健福祉サービス事業所、法律無料相談所（法テラス）等の専門機関へ繋いだ。

③ 地域住民サロン活動

a ここファーム事業

訪問活動を通して、プレハブ仮設住宅や民間賃貸借上住宅に入居している被災者から「集まる場所がないし知り合いもいない」「何もすることがなく朝から酒を飲んでしまう」という話が聞かれた。そのため、野菜作りや花の栽培を通して、気分転換と交流の場を提供し心と体の健康を取り戻すことを目的として、『ここファーム事業』を東松島市の農業経営者の協力を得て平成25年から実施した。平成26年度も継続して4月から12月まで月2回、1回2時間実施している。また、冬期間の1月から3月までは実施できないことから、男性参加者を対象に10:30から12:30の2時間、石巻地域センター分室で調理を通して『男の雑学教室』を行った。平成26年度の実施回数は『男の雑学教室』も含め23回であった。なお『男の雑学教室』の実施日については参加者の意見で実施曜日を決めた。実施状況は表2の通りである。

ここファームの参加対象者はプレハブ応急仮設住宅及び民間賃貸借上住宅に入居されている方である。平成26年度の参加者の実人数は男女合わせて26名、男性13名（うち新規参加者7名）、女性は13名（うち新規参加者4名）が参加された。プレハブ仮設住宅入居者は男女合わせて18名、民間賃貸住宅入居者は男女合わせて8名であった。年代は男性が40代から70代、女性が30代から70代であ

った。参加者の合計は延べ 261 名、畑作業の 1 回平均参加者は 12 名で平成 25 年度の 2 倍強となり、『男の雑学教室』の 1 回平均参加者は 7.3 名であった。

参加者の特徴として、男女ともに内科疾患を抱えた方が多かった。男性はいずれも単身者でアルコール問題を抱え治療を受けている方や、呼吸器疾患やうつ病性疾患を抱えた方が見られた。女性は仮設住宅内トラブルに巻き込まれた方や、津波で親族を失った方、他者との交流が少ない方などがみられた。なお、本事業には農業経験豊富なボランティアの方 2 名に、参加者が作業しやすいように農地を整地するなどの協力をいただき、ボランティアの方は「生きがいになる」と毎回参加されている。

参加された方々は、「昔は家族が集まって農作業したものである。その頃のことを思い出した。ここにきて皆さんと同じことをしていると大家族のようで楽しくやれる」「嫌なことも忘れ、すっきりして元気になれる。野菜の成長を見るだけで楽しい、久しぶりに大声で笑った」「畑に来て楽しい時間が過ごせ元気になった。私が元気になったことで家族も元気になってきて本当に良かった」というような感想を述べられていた。

『男の雑学教室』では実施後、男性参加者から「男性だけでは寂しいので女性にも参加してもらいたい」という要望がだされ、ここファームに参加している女性参加者に声をかけ、3 月は 4 名の方が参加された。男性参加者からは「食事をしながらの会話は楽しい、簡単な料理だから自分でも作れる」という意見が聞かれ、女性が参加された回では「話も弾み楽しいね」と好評であった。平成 27 年度も内容等を検討しながら継続していきたいと考えている。

表 2 平成 26 年度 ここファーム実施状況

実施期間 及び時間	実施 回数	内 容	延べ参加者数
4 月～12 月 第 2・4 木曜日 9:30～11:30	20 回	かぼちゃ、玉ねぎ、大根、きゅうり、 なす、トマト、ひまわり・チューリ ップなど 26 種類を栽培。	計 239 名
男の雑学教室 平成 27 年 1 月～3 月 10:30～12:30	3 回	親子丼・すいとん・あら汁 参加費 200 円	計 22 名 合計 261 名

※ 7 月・8 月は 3 回実施、12 月は 1 回、集会場にてお茶会を実施。

b 手芸教室（表 3）

平成 24 年度に開催した『作品展示会及び交流会』に参加した方々から、「私も作品を作りたい」「交流しながら作品作りができる場を作りたい」という

声が多く寄せられた。平成 25 年度から、民間賃貸借上住宅入居者に交流の場を提供することを目的として、石巻地域センター分室を会場に手芸教室を開催した。平成 26 年度の実人数は 19 名（うち新規参加者 3 名）、参加者の年齢は 20 代から 80 代と幅広く、60 代から 70 代が最も多かった。平成 26 年度の参加者は延べ 111 名、1 回の平均参加者数は 8.5 名であった。講師はボランティアとして 3 名の方の協力を受け、「自分も元気になれてうれしい」と感想をいただいている。単身で生活されている 80 代の女性は「人と話す機会はほとんどない、ここに来るのが楽しみ、家に帰っても作品を作る楽しみができた。教室は参加者同士が出来た作品を見せ合えるので張り合いがある」と感想を述べていた。

表 3 手芸教室実施状況

実施期間及び時間	実施回数	作品および内容	延べ参加者数
平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月 月 1 回 第 3 火曜日 9:30～11:30	13 回	手芸教室 (ちぎり絵・ビーズ)	111 人

(2) 支援者支援

① 各ケース会議、仮設エリアミーティングへの出席

各種関連機関から依頼を受け、アルコール関連問題や精神疾患関連、認知症関連、住民間トラブル問題等のケース会議へ出席し、関わり方や役割等について検討を行った。また石巻市、社会福祉協議会、地域包括支援センター、看護協会、職能団体等が参集しての仮設エリア支援ミーティングに出席し、プレハブ仮設住宅入居者等への支援方法とその方にとって適切な支援機関の検討を行った。

② 個別支援相談

石巻市の依頼にて週 1 回、市役所へ出向いて保健師等に対して助言等個別支援を行った。

③ 乳幼児健康診査支援

石巻市総合支所及び女川町で実施している乳幼児健診に依頼に基づいて保健師、臨床心理士を派遣し母子の相談を行った。健診後保健師とカンファレンスを行い、母と子の心のケアについて助言するとともに継続支援が必要な方の相談を行った。

④ 災害公営住宅入居者への事前説明会への協力

石巻市の依頼を受け、休日（土・日）に災害公営住宅入居者の事前説明会に出席、各災害公営住宅入居者同士の懇談会において、ファシリテーターとして入居者が穏やかな雰囲気での懇談が進められるよう協力した。平成 26 年度、災害公営住宅入居者事前説明会に出席した期間は平成 26 年 9 月から平成 27 年 3 月までであった。

(3) 普及啓発

① 講演会及び研修会の開催

石巻市、社会福祉協議会等から依頼を受け、石巻地域の住民を対象として『アルコール研修会』『心と体のセルフケア』等の研修会を実施した。アルコール関連研修会は医療法人東北会東北会病院（以下、東北会病院）と連携するとともにNPO法人宮城県断酒会（以下、県断酒会）の協力を得て実施した。アルコール研修会の参加者からは「お酒で苦しんだ当事者の力がアルコール依存症者の回復に大きな力になっていることが良く分かった」「お酒の怖さやアルコール依存症のことが少しわかってよかった」という意見が聞かれた。傾聴講座では「話を聴くポイントが理解できた」「地域の中で役立てていきたい」という声が聞かれた。

② 作品展及び交流会

作品展及び交流会は平成24年度から開催され、平成26年度も宮城県石巻合同庁舎内で開催した。平成26年度の開催状況は表4の通りである。作品展の来場者155名、出展に協力していただいた民間賃貸借上住宅入居者は19名であった。また手芸教室に参加されている方もちぎり絵やビーズ作品を出展された。来場者からは「素晴らしい作品を見ていると元気が出るね」「楽しみにしているからまた作品展をやってほしい」という感想が多く寄せられ、ちぎり絵など体験した見学者からは「私もやってみる」という意見も聞かれた。お茶っこスペースでは「久しぶりだね、あんた元気だった、心配していたの」「震災も大変だったけど元気でよかったよね」と久々に会う方や震災時のことを話される方など明るい雰囲気でも交流されていた。

表4 作品展及び交流会の実施状況

日時	平成26年3月6日（金） 10:00～15:00
場所	宮城県石巻合同庁舎 仮設会議室
展示作品	陶芸、ちぎり絵、絵画、習字、和紙人形、パッチワーク、つるし雛 布人形（動物等）、編みぐるみ（毛糸作品、ビーズ作品） 出展者19名
交流会 内容	春の寄せ植え（パンジー）コーナー、ちぎり絵・折り紙体験コーナー ハンドマッサージ、お茶っこスペース
来場者	155名